2011年「日本の活断層」フォトコンテスト入賞作品

評者：白尾元理特別審査委員長

総評

今回のコンテストは昨年に続いて第２回目となります。今年は，応募作品の範囲が空撮写真とトレンチ（調査溝）写真も可となりました。しかし，このように応募作品の範囲を広げても，本コンテストのように対象が非常に限定されているコンテストでは，１回目に過去の良い作品が応募されてしまい，２回目は良い作品が集まりにくいのが現状です。

そのような予想に反して，見応えのある作品が集まったのは，2011年４月11日に発生したマグニチュード7.1の地震によって井戸沢断層系の地表地震断層が現れたためです。応募総数61点のうち３分の１がこの地表地震断層関連の写真でした。今回，優秀賞に選ばれたのはこのうちの黒澤英樹さんの「道路を横断する地表地震断層」です。

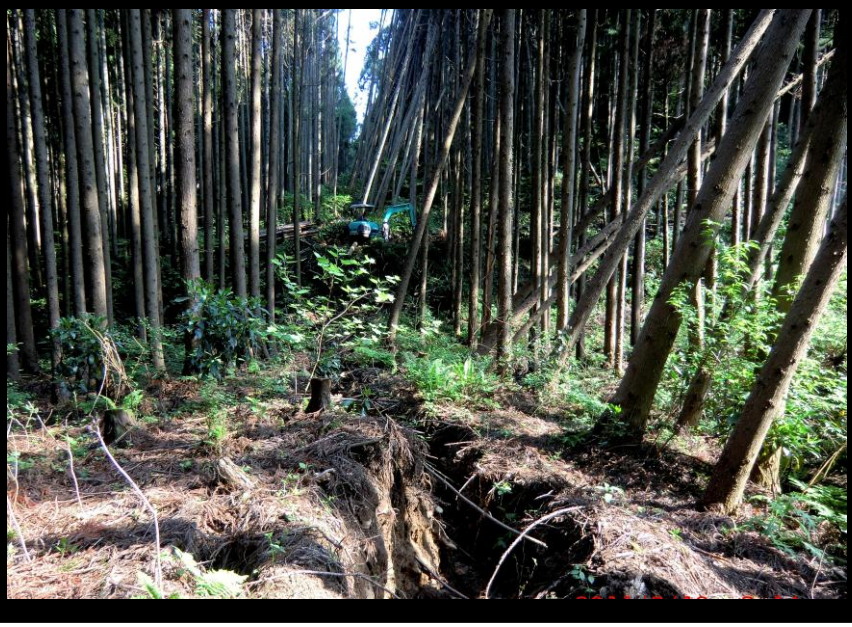
この作品はぱっと見ると，特に美しいとか技術的に優れているということはありませんが，地表地震断層の生々しさが見る人に伝わってきます。撮影年月日を調べると，地震発生のわずか２日後の４月13日でした。時間が経つにつれて雨が降り，草が生え，道路が復旧し，だんだんわかりにくくなってしまいます。黒澤さんの行動力がこの作品をものにしたといえるでしょう。

優秀賞（１点）

黒澤英樹「道路を横断する地表地震断層」（井戸沢断層）

講評：この作品については総評でも述べましたが，それに加えて優れている点はこの断層をわかりやすく説明している点です。手前の下側の道路にはスケールを持っている女性を配し，上側の道路に車を配することによって，垂直落差が約２ｍであることが一目瞭然です。また，最大の垂直変位量の場所で撮影したことによっても作品を迫力あるものとしています。

入賞（6点）

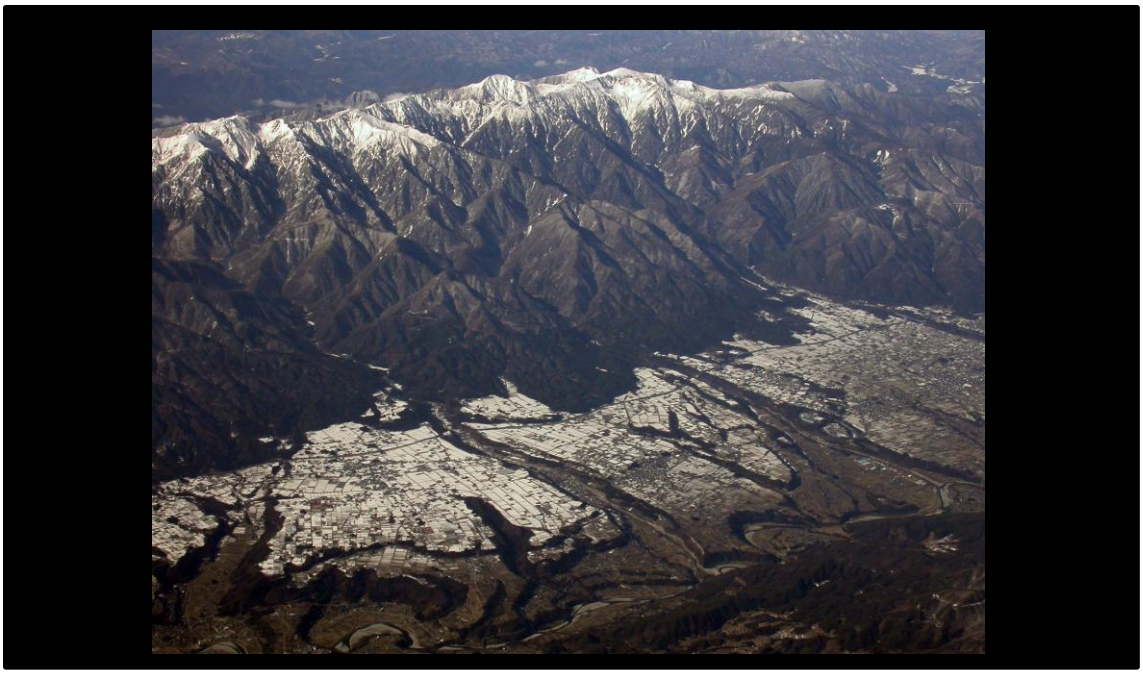


石塚　登「断層と倒木」（井戸沢断層）

講評：この作品は，2011 年 4 月 11 日の地震断層による倒木を 5 月 18 日に撮影したもの。このように密に植林された樹木が，地震断層によって一直線上に並んで倒れることは初めて知りましたが，興味深い現象です。中央にパワーシャベルと人物を配することによって，写真の奥行きがつかみやすくなっています。

郡谷順英「岩手・宮城地震断層はの木立トレンチ」（2008 年岩手・宮城地震断層）

講評：今年からトレンチの写真も可となり，選ばれたのがこの作品。しかし今一歩迫力に欠け，わかりにくいのが残念です。レンズの中心をもう少し右に向け，空の面積をすくなくした方が良かった。また地表には，様々なものが放置されているので，トレンチそのものがわかりにくくなっています。不要なものを撤去するなどして画面がもっと整理されるとよかった。



後藤秀昭「木曽山地と伊那谷の活断層」（伊那谷断層帯）

講評：この作品は，中央アルプス東側の伊那谷断層帯を定期便から撮影したものです。定期便から撮影する利点は，飛行高度が 1 万メートルと高いために大きな地形を捉えやすいことです。地形の空撮ではセスナが活躍することが多いのですが，セスナの上昇限度は 4000m程度なので万能というわけではありません。断層崖に雪が積もっていないために，断層の位置がわかりやすくなっています。

田村丈司「411 の出来事－閉塞湖－」（塩ノ平断層）

講評：この作品は，2011 年 4 月 11 日の地震断層を 6 月 21 日に撮影したもの。他の作品では表面の土壌が切られている様子しかわかりませんが，この作品ではその下の地層がすっぱりと切断されていのがわかります。その延長上にも下流側の隆起によるせき止めで閉塞湖ができているのもわかります。

田村丈司「411 の出来事－連続－」（塩ノ平断層）

講評：この作品は，2011 年 4 月 11 日の地震断層の南部の水田を横切る場所を 6 月 20 日に撮影したもの。水田は平坦なので，上下方向のわずかな変位が読み取れます。評者もこの場所を 10 月に訪れましたが，その時には軟らかい水田の土は崩れ，雑草も生い茂っていて断層がわかにくくなっていました。

渡辺満久「片貝断層上盤側の層面すべり断層」（片貝断層）

講評：この露頭にはさまざまな現象が記録されているようで，魅力的な写真となっています。道路工事中にできた露頭でしょうか，解説文は活断層の専門家向けであるために，一般向けには説明の図があると親切だと感じました。